

授業概要

社会と言語とは、実際には切っても切り離せない関係がある。もし人の集まりである社会というものがなく、一人で生きているならば、言葉は不要となるかもしれない。社会と言語はどのような関係があるのか。社会と言語との関係について考えるきっかけになるよう、社会言語学の基本的な考え方を講義する。

授業計画

第 1 回	言語学と社会言語学
第 2 回	方言について
第 3 回	職業と言葉
第 4 回	言葉の世代差
第 5 回	言葉と性
第 6 回	言語共同体
第 7 回	言語変化はどのように起こるのか
第 8 回	ピジンとクレオール
第 9 回	言葉と文化の関係
第 10 回	タブーと言い換え
第 11 回	会話と文脈
第 12 回	「あなた」と「きみ」
第 13 回	行動と会話
第 14 回	日本語の特色を考える
第 15 回	授業のまとめと期末試験について
第 16 回	筆記試験

到達目標

社会言語学の基本的な考え方を一通りマスターする。それによって、自分が使っている言葉と社会の関係について、考えることができるようになる。

履修上の注意

講義形式ではあるが、言葉に対する「気づき」を大切にしたいので、積極的に臨んでもらいたい。日本語話者であれば、特に前提となる知識は必要としない。

予習復習

授業の最後に、次回の授業の内容に関係した課題を提示し、出欠確認用紙に記入してもらう予定である。必須ではないが、そこに書かれた内容を授業に反映することもあるので、積極的に記入すると同時に、次の授業まで、日常生活の中でそのことに対して意識を持ってもらいたい。

評価方法

期末試験によって成績をつける。期末試験は、授業で学んだ知識を確認する問題とともに、言葉と社会の関係について、授業を通して発見したこと、あるいは疑問に思ったことなどを自由に書いてもらう設問を含む予定である。

テキスト

プリントを作成して配布する。